

1. 調査報告概要表

作成日 平成22年 2月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1071100232
法人名	株式会社 いずみや
事業所名	グループホーム 森の家
所在地	群馬県安中市安中1丁目10番17号 (電話) 027-381-4401
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年11月24日

【情報提供票より】(21年11月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9人
利用定員数計	9 人
常勤	6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り 平屋建て 1階建ての 1階部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月9日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	77歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	正田病院 ・ 須藤病院 ・ 室橋歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「その人らしさを大切に・生きる喜びを支えるケア・・・」等、独自の理念を掲げ、地域住民や関連機関との連携を深めた運営を心掛けている。管理者と職員は連携を密にしなが、前向きな姿勢で利用者本位の支援に取り組んでいる。利用者一人ひとりが、自分のペースで伸び伸びと過ごされている様子からも伺い知ることができた。利用者の思いや力量を把握し、環境の整備や活動の場面づくりの工夫をしながら、その人らしく生活できるよう支援している。職員の言葉かけや対応は優しく穏やかで、利用者は明るくゆったりと生活しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題であった重度化や終末期に向けた方針の共有については、事業所としての重度化や終末期に向けた対応方針は定めておらず、文章化はされていない。運営推進会議を活かした取り組みでは、評価の結果報告や意見交換等を行い、サービスの質の向上に繋げている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員は評価の意義を理解しており、今回の自己評価は管理者が施設長・職員に聞き取りを行い、相談しながら作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催されている。事業所から運営状況や評価への取り組み等について報告を行い、出席者からの意見や要望を受け、話し合いを行っている。そこでの意見等はサービスの質の向上に活かしている。利用者も会議に参加している。動物と触れ合いたいという利用者の要望があり、職員が自宅で飼っている犬や猫を連れてきて利用者2名が触れ合うことができた。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>隔月に「森の家便り」を発行し、利用者毎に最近の様子、写真を載せ、家族に報告している。運営推進会議時や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、苦情や意見等聴くように努めている。出された意見等には速やかに対応し、運営に反映させている。施設長が苦情担当窓口になっており、文書で明示している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の人達と散歩時に挨拶を交わしたり話をしている。野菜や花等を頂いた時にはお茶に誘う等、日常的なお付き合いを大切にしている。老人会の慰問、地元の祭りや文化センターの催し(踊り・演奏等)、遠足マラソンの見学等に参加している。地元高校のヘルパー2級研修の受け入れを行い、隣接する消防署の訓練要請に協力している。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時から、「その人らしさを大切に」「生きる喜びを支えるケア」「地域の方々に親しまれる施設づくり」を掲げており、事業所が目指す地域密着型サービスのあり方を端的に示した独自の理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、申し送り時や職員会議等で理念の唱和を行い、話し合いながら共にケアの方向性を確認している。日々の生活の場において、理念の実践に向けて取り組んでいる。玄関入口に理念を掲示している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人達と散歩時に挨拶を交わしたり話をしている。野菜や花等を頂いた時にはお茶に誘う等、日常的なお付き合いを大切にしている。老人会の慰問、地元の祭りや文化センターの催し(踊り・演奏等)、遠足マラソンの見学等に参加している。地元高校のヘルパー2級研修の受け入れを行い、隣接する消防署の訓練要請に協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義を理解しており、今回の自己評価は管理者が施設長・職員に聞き取りを行い、相談しながら作成している。外部評価の結果については、職員間で話し合いを持ち、具体的な改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催している。事業所から運営状況や評価への取り組み等について報告を行い、出席者からの意見・要望等を受け、話し合いを行っている。そこでの意見等はサービスの質の向上に活かしている。利用者も会議に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回、市の介護相談員の受け入れを行っている。市主催の検討会議に参加し意見交換を行っている。不明な点等があれば、市の介護高齢課窓口相談に出向き、担当者にアドバイスをもらったり情報交換を行う等、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等の来訪時には、利用者の健康状態や暮らしぶり等を報告している。隔月に発行している「森の家便り」に、利用者一人ひとりの最近の様子、イベントや外出時の写真を載せ、個々に合わせた報告を行っている。金銭管理の報告は定期的に行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意し、苦情や意見等聴くように努めている。出された意見等には速やかに対応し、運営に反映させている。施設長が苦情担当窓口になっており、文書で明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職等で職員が代わる場合には、利用者や家族等に説明し、「森の家便り」に記載している。新しい職員には、2週間位先輩職員が指導しながら共に支援にあたり、利用者へのダメージを防ぎ、馴染みの関係が築かれるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修、身体拘束廃止に関するシンポジウム、在宅におけるターミナル期にうける訪問看護と医療連携、認知症の早期診断・治療と最近の知見、救命救急講習等の法人外研修に職員が交代で参加しており、職員会議や申し送り時に報告を行い、資料を回覧する等で共有している。月1回法人内勉強会(認知症について等)を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、大会や交換研修、ブロック別研修会等に参加し、情報交換を行う等の活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人・家族等に居室や施設内を見学してもらい、職員や他の利用者とお茶を飲みながら話をしている。入居後も、本人が不安にならないよう寄り添い、家族等の協力を得ながら、徐々に環境に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は優しい言葉かけで利用者に接しており、日常生活場面で昔の話を聴かせてもらったり、家事・裁縫・うどん作り等を一緒に行いながら教えてもらうことも多い。共に暮らし支えあう関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、言葉かけや会話等で工夫をしながら、利用者一人ひとりの思いや意向の聴き取りに努めている。家族等からも情報を聴き取り、職員間で共有しながら、本人本意に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のかかわりの中で、本人、家族等の思いや意見を聴き、申し送り時や職員会議等で意見交換を行い、それぞれの意見や気づきを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的場合の見直しについては、月1回モニタリングを行い、職員間で意見交換をしながら、遂行状況、効果等を評価し別紙に記録しており、介護計画書には6ヶ月毎の見直しの記載を行っている。また、状態の変化に応じて随時見直しを行っており、本人・家族等の意向や状況を確認しながら、現状に即した新たな計画を作成している。	○	新たな要望や状態に変化が見られない場合でも、本人・家族等の意向や状況を確認しながら、遂行状況、効果等を評価し、3ヶ月に1度は見直しを行ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
okonai					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の要望や状況に応じて、受診、通院支援、買物支援、入院時の洗濯物支援等、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医で適切な医療が受けられるよう支援している。協力医療機関とも連携を図っており、月2回の往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態の変化に応じて、その都度、かかりつけ医や家族等と話し合い、本人や家族等の意向に沿った支援をしているが、重度化や終末期に向けた対応方針は定めていない。	○	事業所として対応しうる最大の支援方法を踏まえて、重度化や終末期に向けた対応の方針を定め、それを文章化し、できるだけ早期から本人や家族、かかりつけ医等と話し合いをくり返し、その時々家族等の意向を確認しながら、関係者全体で方針の統一を図ってほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重し、居室に入る時や排泄時等、言葉かけや対応に細やかな気配りをするよう心掛けている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日その時の状態や気持ちを尊重しながら、起床や就寝の時間・散歩・買物・家事等、できる限り個別に支援を行い、その人らしく過ごしてもらえるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は力量に応じて、野菜の下ごしらえ・食器拭き・テーブル拭き・後片付け等、職員と一緒にやっている。職員は利用者と共に食事をしながら、さりげない介助や会話等で食事が楽しみなものになるよう支援している。ファミリーレストランや中華料理店に外出に出かけたり、寿司の出前を取ることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回(月・金曜日)午後に入浴支援を行っている。入浴の順番は決めてあるが、利用者の状況に応じて入浴するタイミングを計っている。バラの花びらや入浴剤で香りを楽しめるよう工夫している。	○	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの習慣や希望をよく聴いて、相談しながら個別の入浴支援をしてほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力量を把握し、カレンダーの日めくり・食事の準備・後片付け・花の水遣り・裁縫・洗濯物たたみ等の役割を持ち継続できるよう支援している。ぬり絵・筋力トレーニング・おやつ作り・誕生会・新年会・納涼祭、クリスマス会・紙芝居・合唱・ボランティアの慰問等で楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、玄関前にテーブル・椅子を出し、外気浴を兼ねておやつ等を楽しんでいる。希望があれば散歩や買物、ドライブに出かけたり、梨狩り、紅葉狩り、外食、お弁当やお菓子を持って花見に出かける等、外出支援が行われ気分転換が図られている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており、見守りを徹底しながら安全面に配慮し、日中玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。居室には鍵を付けていない。暖かく穏やかな日には玄関を開放している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て、(日中・夜間想定)避難誘導訓練・消火訓練を利用者と共に実施している。運営推進会議等で家族等や地域住民に協力の依頼をしており、訓練には家族等や地域住民も参加している。隣接している消防署の訓練要請にも協力し参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記録し、職員は情報を共有しながら支援している。その人の状況に応じたメニューや量の増減等個別に配慮している。利用者の好みを取り入れ、1週間毎に献立を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に季節の花を植え、プランターを各所に置いている。玄関ホールにはテーブルと椅子を用意し、南側ホールに応接セットを配置している。ホールの壁には行事の写真、貼り絵や手作りのリースを飾り、季節感を採り入れている。室内は清潔に保たれており、家庭的な雰囲気の中で、自由な居場所が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テーブル、籐の椅子、本棚、書籍、衣装ケース、時計、カレンダー、本人の作品、ぬいぐるみ等、馴染みのあるものや好みのもが持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっているように見受けられた。		